りとるらいふ通信

（社福）みんなでいきる
障害福祉サポートセンター
りとるらいふ
発行日：2022年10月

暑い夏が終わり、段々と涼しくなってきましたね。
黄金色だった田んぼもすっかり刈り取られ、少しさ寂しい気持ちと…
新米を早く楽しみたい！と、「食欲の秋」を満喫する気満々の通信委員です。
皆様は、秋と言ったら何を想像しますか？「スポーツの秋」「読書の秋」「食欲の秋」など…
いろいろありますね。そんな今回のトップ記事は、各事業所の「○○の秋」を聞いてみました！

ららん

「スポーツの秋」

ららんでは「スポーツの秋？」なのかな？トランポリンが人気です。おやつを食べてから直ぐにトランポリンに向かうお友だちもいれば、まだ１人では怖いけど職員と手をつないでポーン！ポーン！と跳ねるのを楽しむお友だちもいます。高く飛び跳ねるもよし、低く細く体を揺らしてたのしむもよし♪トランポリンは体幹を鍛えられ全身運動にもつながるので、みんな知らない間に効果があらわれちゃうかも(´∀`)♪

とも

「芸術の秋」

「灯篭ってオシャレだけど高いよなあ、、、」「あ、そっかつくればいいんだ」ということで作っちゃいました(笑)。優しい明かりで紅葉が映え、とびきりオシャレな灯篭がともの玄関を彩っています（^^）ともにお越しになった際は、ぜひご覧ください。

きら

「それぞれの秋」

読書にいそしむ方、おいしいご飯を楽しむ方、ウォーキング(運動)に励む方、絵を描くことに夢中になっている方、皆様それぞれの秋を楽しまれています。まだまだ秋は深まっていきます。それぞれの秋を楽しんでいきましょう。紅葉の秋も楽しみですね。

もーと

「スポーツの秋 見つけた！」

もーとには、
身体を動かして遊ぶことが好きなお友達がたくさんいます！バランスボールやトランポリンで体を揺らしたり、息が切れるまで鬼ごっこをしたり、他にもダンスやビーチボールなど自分の好きな遊びに夢中！…ですが、ついていく大人はヘトヘト…もっと体力をつけなきゃなぁと実感する秋なのでした🍃

にこ

「駝鳥の秋」

秋といえば
「読書の秋」や「芸術の秋」に並び「鳥類ダチョウ目ダチョウ科ダチョウ属の秋」もよく言われますね。ええ、言われます。そこで会いに行きました！思ったより近くに来たので、ちょっと怖かったけど、ヨモギの葉を差し出すと食べてくれ、動物との触れ合いを楽しみました。それにしても上越にダチョウがいたとは…。

リレーエッセイ

「これだけは譲れないもの」

もーと　古川 職員

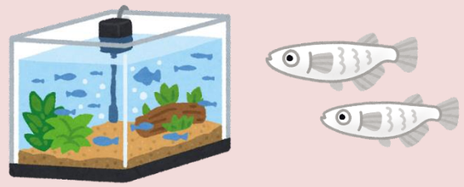
私には譲れないというか、ちょっとしたこだわりがあります。それは、自分の車では歌番組を録画し編集したDVDを、CD代わりに聞くことです(^^♪　好きなアーティストの歌番組🖊があると録画し、お気に入りだけを編集します。それをやりすぎているせいか、DVDのリモコンがきかなくなり、テレビのリモコンも使って両手で編集作業💦　家族がDVDにするという時も、自分でやらないと気が済まない私…(-_-;)
なので、プレイヤーを買い替える時は、値段が高くても編集しやすさ重視！！
そのため、いつも同じメーカーを買ってしまいます。リモコンがきかなくなったので、そろそろ買い替え時かなぁ～と思う今日この頃です…

次のテーマ
「移住するなら、何処？」

「夏の思い出」

ふぁみりあ　田村 職員

平日に一人当てのないドライブ、ハンドルを握り車を走らせる。
道中に遠く片側に見える水平線、海岸を歩きたくなった。
海岸に降りて歩くと風もほとんどなく波も穏やか。この海岸はヒスイとりで人が集まる所。
私はどんな石がヒスイなのかわからないけれど綺麗な石だけを三っ、四っと拾い集めていく。
１時間ほど歩くと腰を下ろし、大海原を眺め波の音を聴きながらリラクゼーション。
拾い集めた綺麗な石は飼育しているメダカの水槽のそこに私の夏の思い出と共にきらめいています。



次回のテーマ
「あなたの結婚したい理想のタイプ」

実習生受け入れてます

りとるらいふでは、今年度から初めて看護師実習の受け入れを行いました。上越看護専門学校から多くの学生が来られ、放課後等デイサービスもーとの現場で、利用者の皆さんや職員の様子を見て様々なことを学んでいました。
ご協力いただきました皆様ありがとうございました。

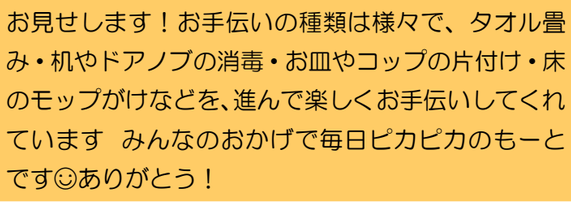
各部門活動報告

きら

きらでは「構造化」をより一層進める為、日課や作業スペース、座席の配慮などの見直し、調整を行いました。また、現在、お一人おひとりの自立課題を見直し、必要に応じて修正、更新を進めています。

とも

手作りの畑でさつま芋収穫を楽しみました。
大きなお芋が獲れますように！とドキドキしながら長いツルをたぐり寄せ、皆さんとても盛り上がりました。堀ったお芋をパカッと開けたら…中から出てきたお菓子をゲット★



ららん

最近のららんでは、大きいお友だちが小さいお友だちにルールを教えながらトランプをする様子がみられています。なかなか勝てなくてくやしがるお友だちも「つぎはがんばるぞー!!」と何度も挑戦しています(#^.^#)ファイト！

もーと

今回は、もーとの子どもたちの「お手伝い」の様子をお見せします！お手伝いの種類は様々で、タオル畳み・机やドアノブの消毒・お皿やコップの片付け・床のモップがけなどを、進んで楽しくお手伝いしてくれています　みんなのおかげで毎日ピカピカのもーとです☺ありがとう！

にこ

９月プログラムは「大きなちぎり絵を作ろう！」。
小さく千切られた紙がみんなの力で少しずつ彩りへと変わっていきます。細かい作業も頑張ってます！
完成が原稿の〆切に間に合わないのはご愛敬。
次号公開予定！

厚生労働省で培ったものが今の仕事に活かされた瞬間

障害福祉サポートセンターりとるらいふ
統括施設長　片桐公彦

私は平成２９年４月から令和３年３月末までの４年間、厚生労働省で「障害福祉専門官」と「虐待防止専門官」という仕事をさせていただいていました。仕事としては、知的障害のある方々の福祉施策の企画・立案で、報酬改定や研修カリキュラムの策定、それらにまつわる研究事業の進捗管理、障害者虐待防止対策に関する業務等に従事していました。

これ以外にも国会対応や施策に関係する国会議員への説明や、議員連盟に出席するといった仕事もかなりありました。また関係団体等からの要望も山のようにありますので、その対応をしたり、事前根回しの作業も頻繁にありました。行政説明（講演）の依頼も結構あって、年間５０本位は講演で全国を回っていたと思います。

厚労省にいて、特に大変だったのは、多くの人がそう言うと思いますが間違いなく「国会対応」でした。質問が当たると、全ての仕事を止めてその対応に入ります。議員さんへの質問取り、答弁の作成、必要資料の作成等など、一問当たるだけで終電を逃す、なんてことはザラにありました。ちなみに、最もしんどかったのは答弁を書き上げたのが夜中２時で、次の日（というか「その日」ですね）朝７時に出勤、というものでした。

そんな厚生労働省でのお仕事でしたが、私が最も印象的だったのは、そこに働く人びとの「障害のある方々に対する誠実さ」でした。時間外労働も多いし、難解な方程式を解くようなややこしい利害関係の調整も山のようにありました。あきらめそうな場面が何度もありました。でもその一方で「この政策を実現したい」と向き合う多くのスタッフにたくさん出会いました。その中には私よりずっと年下の、２０代半ばの若者もたくさんいました。とある自治体から出向してこられた若い行政職員の方は、ある政策を進めようとしていましたが、他の省庁から横槍が入りそうになったときに、一歩も譲らず毅然とした態度で「それはできない。障害のある人達のためにならない」と戦っていました。そんな場面を何度も目にしました。

当時の私達は自分達に課された使命や役割を忠実に果たし、１ミリでもいいから、障害のある方々の暮らしや生活を前向きにしたいと願う共同体でした。年齢や性別や属性、時には上司部下の関係も超えた、エキサイティングで充実したやりとりがありました。譲れない政策を巡って、口論に近いような議論を交わした事もありました。そこにあったのは、一つの目的に向かって走る情熱を抱えた人々の集まりでした。

厚労省を退職して１年半経ちますが、今でもその時の激しいやりとりや取り組んだ仕事のことを時々、思い出します。とはいえ、今の障害福祉制度が完璧だとはもちろん思っていません。「これどうにかならんかなあ」と思うこともたくさんあります。けれど短期間ではありましたが政策づくりに携わっていた立場からすると、一つひとつの制度の背景に潜んだエピソードや物語を感じることができます。それはある意味、政策づくりに関われた特権なのかも知れません。時折、関わった政策の行政資料を目にすると、「あー、ここ、苦労したなあ」と愛おしくなったりもします。制度というのは人の手から紡ぎ出されていますので、完璧な制度は存在しません。だから問題が起きたり、時期が来たら定期的にアップデート（法改正や報酬改定、基準変更）をかけるわけです。それは組織や人も一緒のようにも思います。

厚労省から帰ってきて、私はなんだか気が長くなったような気がします。意見の対立や、自分の価値観とは違う局面に出くわした時、私はその背景を探るようになりました。それは虐待防止専門官として多くの虐待事案に携わる中で、例えば刑事事件に発展してしまうような事案に直面した際に、その背景には単純な理由ではなく、幾層にも折り重なった様々な要因があることを知るようになったことも少なからず影響しているのかも知れません。

何か政策を作ろうとした時、必ず実行しようとすることに対しての反対意見や強い反発等の「副作用」が発生しました。中には「これはいくらなんでも酷いんじゃないか」と思うような事をしてくる人や団体もありました。それでも、その人や組織が抱えている立場や従来からの主張、立脚している価値観といった背景を知ると、その常軌を逸しているともいえる行動も理解できることもありました。「ああ、この人なりの事情があるんだなあ」「こうしなければいけない状況があるんだなあ」と思うようになりました。

厚生労働省での仕事は、ありとあらゆる多様な価値観がこの世の中には存在することを私に教えてくれました。その多様性を受け入れ、背景を知り、理解をする大切さを感じる瞬間があります。そんな時、私のあの濃密な４年間は私の人生においてとても貴重な経験だったのだと、感謝するのです。